

子宮体がん再発、予後に関する後方視的解析

2005 年 1 月から 2015 年 12 月までの間に子宮体がん手術を行われた方の後方視的解析を行います。

研究の概要・意義・目的：

子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）は日本女性の罹患数第 5 位、死亡数第 8 位の悪性腫瘍です。特に子宮体がんは増加傾向にあり、治療開発は急務です。

子宮体がんの初回標準治療は手術ですが、手術後は再発リスクに応じて化学療法などの術後治療を検討します。しかしながら、再発に関わる因子や術後治療の効果については十分に確立しているとは言えません。再発、予後に関する情報を検討することは、適切な術後治療に恩恵を受ける患者さんを適切に選択し、治療計画を立てることに役立ちます。本研究は、子宮体がんの治療開発の基盤データを構築することを目的としています。

方法：

2005 年 1 月から 2015 年 12 月までの間に、国立がん研究センター中央病院で手術を行われた患者さんを対象としています。対象となる患者さんの診療録から必要な情報を収集し、再発や予後に関わる影響を検討しますが、作業に当たる人員は医師をはじめとする医療知識のある研究者です。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。患者さん等からのご希望があれば、その方の情報は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 温泉川 真由

TEL 03-3542-2511